

# 月報 シオン山

2022年7月3日発行 (No382)

\*\*\*\*\*

## 日本バプテストシオン山教会

〒803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

\*\*\*\*\*

### 【月間聖句】

わたしは心を尽くして主に感謝をささげ  
驚くべき御業をすべて語り伝えよう。

(詩編9編2節)

「還暦で母教会に戻れて」

持田文重

私は4才から2年間、家から一番近い小倉カトリック幼稚園に通った。年に2回園児達は先生に連れられて歩いて香春口の小倉カトリック教会に行った。私は初めて見る異国情緒あふれる礼拝堂に大変感動して教会の大好きな子供になった。神様のお話は先生からいつも聞いていた。教団賛美歌111番「神の御子はこよいしも」をラテン語で習って覚えた。今でも少し覚えている。家の隣に同年代の姉妹がいて、よく遊びに行った。ある日、姉妹のお母さんが「イエス・キリスト」と書いた絵本を読んでくれた。その本はその頃の私には難しかったが、どんな絵本より心に残った。

姉と従姉妹が西南女学院中学に入った。三年後、キリスト教に関心のある私はどうしても西南に入りたくて、その時だけは必死で勉強した。中二の時、荒瀬昇先生からバプテスマを受けた。

大学時代は東京新宿区の女子寮で生活した。寮から見える所に日本キリスト教団富士見町教会があり、すぐ転入会した。牧師は80代の島村亀鶴先生だった。29才の武公子さんという教友が教会から与えられた。喜んで通っていたが、説教が私には大変難しくよくわからなかった。説教の時間は40分以上だった。私は他の教会員が皆、私より、たくさん信仰があると思って、だんだん足が遠のいて約一年ちかく教会に行けなかった。その期間は本当に孤独で淋しく浪人中でもあった。ある日、淋しさに耐えられなくなり、勇気を出して高くなった教会の敷居をまたいだ。武姉は泣いて抱きついて喜んでくれた。武姉の祈りによって私は教会に戻れた。私の居ない間に新しい副牧師の先生、若い伝道師の先生、私と同年代の若い学生達が沢山メンバーになっていて、それから新しい友も与えられ、楽しい教会生活を送った。高校二年だった野中宏樹君（現野中牧師）は同じ青年会のメンバーだった。

親しい牧師先生の紹介で24才の時、主人（牧師）と結婚した。その時、主人は5年近くアメリカのサンフランシスコに日系一世の女性達の為に日本語教会の牧師をしていた。2、3年はそこで主人の手伝いをする予定だったが、色々な理由で教会を閉めることになり、8ヶ月で日本に帰った。伝道の方法は色々あったが南区の葛原で開拓伝道をする事となった。主人は英語、英会話の教師の仕事をして教会は日曜礼拝だけのほとんどボランティアだった。礼拝の席上献金は次の週の礼拝後の昼食とお茶、お茶菓子代になった。教会の名前は葛原キリスト教会だった。25年間葛原キリスト教会で礼拝を守った。10人前後の出席だった。はじめの頃は私が教会学校の教師をして、10人くらいの小学生が集まり、クリスマスには聖劇、賛美歌の合唱、楽器の合奏もして、とても楽しかった。でも4年生になると地区の子供会に入る事になっていて男子は野球、女子はバレーをするためにやめてしまった。一番小さかった女の子が4年生になってやめた後は、私と次男の喜明の二人でずっと教会学校を続けた。喜明と教会学校の案内のチラシを作ってコピーして配ったが、だれも来なかった。家の教会では大変な事のほうが多かったが、少ないメンバーで親戚以上の大変よい交わりが出来た。

25年目に主人が突然、脳管出血で倒れ、その日から教会の仕事も出来なくなった。数少ないメンバーの要望で礼拝と同じ時間に日曜日だけ礼拝堂に変わる16畳のリビングに集まり、皆で聖書を読み、祈り、持ち寄り昼食会をした。私にとって大変よい癒しの時間だった。約10ヶ月の入院生活を終え、主人が家に帰ってきて、私にとって初めての24時間体制の介護生活が始まった。主人が入院している時は、毎日数時間、面会に行くだけでよかったが慣れない介護の毎日に疲労困憊してしまい、せっかくの祈祷会もやめてしまった。介護にあけくれ、気付いたら七年間も教会から遠ざかっていた。これではいけないと思い、息子達がお世話になったボーイスカウトの隊長夫婦が教会員だった聖公会の教会に転入会した。その時どうしてシオン山教会が思い浮かばなかったかという、私の中でシオン山教会は西南女学院の学校の教会という強い固定観念があった。

転入会した教会では教父母（教会の信仰の両親）を与えられて大変よい交わりの中で幸福であったが、礼拝の形式がシオン山教会や富士見町教会とあまりにもちがうので、何年たっても礼拝になじめなかった。喜明が島田兄に誘われてシオン山教会に通った事がきっかけとなり神様の不思議なお導きで母教会のシオン山教会に42年ぶりに戻る事が出来た。礼拝に出席した私は一瞬で西南生に戻り、今すわっている礼拝堂の椅子も前の椅子についている足置きも不思議なほど、今まで行ったどの教会の物より私の体にぴったりと合った。何かの用事で教育館の2階に行った時、突然、西南女学院中学の校舎と全く同じ匂いがして、しばらく驚いて立ち止まってしまった。随分、遠回りをしてしまったが神様の計り知れない御計画により還暦でシオン山教会に帰ることが出来た。もう二度と神様からもシオン山教会からも遠ざからない様に毎日、祈っている。